

平成 30 年度 社会福祉法人 ひびきの杜 本部事業報告

総括

本年度は、昨年度立ち上げた居宅介護事業所が人員は一人ながら一年を通じて十分に稼働し、デイサービスの安定した利用者増の大きな基盤となった。伴って決算報告にもあるように本年度決算は昨年度の単年度赤字の解消に留まらない益をだすことができた。営業収支の安定は事業継続のために必要不可欠であり、やっとその見通しが継続するようになる事ができた一年となった。

しかし、下にも記したように、本年度も職員の退職が続き、全体で3名の人員減となった。うち訪問入浴サービスにおいても常勤職員一名の退職により2台稼働を取りやめ、1台のみの稼働となったが収益は前年並みに維持できた。デイサービスと併せ、本年度の収益を少ない職員数で上げ得た事については本当に一人一人のスタッフがスキルをあげ、なおかつ体調や気力を保ちつつ業務に臨んでくれたおかげであり、心から労いたいと思う。経済の安定と同じく人員の安定も各事業継続には欠かせないため、早急に良い人材を補充する事を次年度への大きな課題としたい。

また、このような人員の状況から本年度は内外部の研修や介護講座の開催、昨年度まで受託していた久留米市のドレミで介護予防など、外部への働き掛け等は出来るだけ抑えて、職員の負担軽減を図りつつ、安全な業務を第一優先とした。

そのような中であっても本年度より本格的に始まった京町校区の支え合い推進会議へ、施設等の学識経験者として参加し地域包括ケアシステムの構築の準備に関わらせて頂いたり、毎年行っているバザーの収益金を校区コミュニティセンターの建築資金へ寄付をしたりと、地域の一員としてできる事を行いながら地域社会の一端を担う活動ができた点は良かったと思う。

* 地域包括ケアシステム：厚労省は2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。

1. 組織・規程・処遇改革

- ・再雇用に関する内規改訂
- ・退職金に関する内規改訂
- ・就業規則 育児・介護休業等に関する規則の改訂
- ・給与規定 通勤手当の改訂及び非常勤職員通勤手当の新設
- ・経営顧問を権藤会計事務所よりアイユーコンサルティングに変更（12月より）

2. 人事

採用・退職

- ・鐘江 節子（デイサービス非常勤介護職員） : 6月1日付採用・9月28日付退職
- ・大西 真未（デイサービス非常勤介護職員） : 6月1日付採用・10月31日付退職
- ・手塚 彩（デイサービス非常勤介護職員・音楽療法士） : 1月22日付採用
- ・石橋 和美（デイサービス非常勤介護職員） : 3月1日付採用

- ・吉村 泰彰（ケアプランサービス管理者・介護支援専門員）：5月10日付退職
- ・牟田 澄雄（訪問入浴・デイサービス常勤介護職員）：7月31日付退職
- ・藤原 美紀（デイサービス非常勤看護職員）：12月31日付退職
- ・平田 詩織（デイサービス非常勤介護職員・音楽療法士）：3月31日付退職
- ・堀江 明子（デイサービス・訪問入浴常勤看護職員）：3月31日付退職

異動・登用

- ・伊原信一郎（介護支援専門員）：5月1日付でケアプランサービス管理者登用
- ・野中 優希（デイサービス介護職員）：5月1日付で常勤職員登用
- ・古澤 幸子（デイサービス介護職員）：3月1日付で常勤職員登用
- ・齋藤 由宇（居住生活援助員）：防火管理者講習受講
- ・岩根 壘（デイサービス介護職員）：安全運転管理者講習受講

3. 交付金・助成金等

- ・キャリアアップ助成金正社員化コース申請（1人分）：570,000円
- ・両立支援等助成金・出生時両立支援コース申請（1人分）：570,000円
- ・キャリアアップ助成金人材育成コース申請（1人分）：支給は平成31年度
 - * 申請手続き等社会保険労務士法人HRサポートへ業務委託 委託料：月10,800円
- ・平成29年度に申請していたキャリアアップ助成金人材育成コース（2人分）：728,518円受給
- ・ ” キャリアアップ助成金正社員化コース（1人分）：570,000円受給

4. 受託事業

- ・久留米市介護予防サポーター養成講座（6月13日）における体力測定測定員

5. 地域交流・広報活動

- ・出張体操
 - 八女市西公民館講座「いきいきチャレンジ塾」
 - 京町校区瀬下ふれあいの会
- ・京町校区社会福祉協議会理事受任（施設長）
- ・京町校区支え合い推進会議への参加（6回）（施設長）
- ・京町校区第35回校区ソフトボール大会参加
- ・NPO法人城南健康ふれあい倶楽部「認知症予防カフェ」への協力
 - 認知症予防カフェでの相談業務（デイサービス管理者・施設長）：月1回
 - 運営委員会への参加（施設長）：3か月に1回
- ・イベントへの久留米市後援申請
 - 開設14周年記念『高山大知ハンドフルートコンサート』
 - ふじの郷クリスマス『久留米音協合唱団コンサート』

6. 他事業所との交流

- ・ 齋藤醫院・すずのねヘルパーステーションとの協力会議 : 6回
- ・ ミールマックス (厨房委託業者)・齋藤醫院との給食会議 : 5回
- ・ 久留米市介護福祉サービス事業者協議会総会・懇親会
- ・ 久留米市介護福祉サービス事業者協議会会員親睦ボーリング大会
- ・ 医療・介護異職種交流会「てっぺん会」
- ・ 専門学校共生館国際福祉医療カレッジ社会福祉士通信学科より社会福祉士教育実習 1名
- ・ 久留米大学文学部社会福祉学科より社会福祉士教育実習 1名

7. 職員の質の向上・スキルアップ

年度初めの理事長研修 : 5月10日 : 全職員対象

この他、デイサービス部門においては新総合事業 (元気デイ) の口腔ケア加算の要件となる口腔ケアの研修を 2 回行った。総括にも上げたように人員数の減少によりなかなか内外部の研修が難しい状況だったが、それぞれの部門の朝礼、終礼またミーティングや会議等において事故やヒヤリハット事例を通じてアセスメントを行いながら技術や知識の質の低下防止と職員の共通認識を図った。

資格取得では本年度、介護福祉士の試験に 2 人が臨み両名とも合格した。また社会福祉士の試験も 1 人が臨み合格した。今後は、その資格を活かすことでより質の高いサービスに繋がっていく事を期待したい。

施設長 : 長谷川 美樹

平成30年度 デイサービス部門 事業報告

重点目標

- ① 介護保険報酬改定に伴う変更事項に対する利用者への適切で丁寧な対応
- ② 利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化
- ③ 組織内の連携の強化及びサービス内容の充実
- ④ 職員の資質向上
- ⑤ 地域社会へのアプローチの強化と経営の安定化
- ⑥ 環境整備
- ⑦ その他

総括

平成30年度は介護報酬制度が3年ぶりに改定されたのに加え、医療・診療報酬制度も改定が行われダブル改定となった年であった。今回の改定では医療と介護の連携や自立支援・重度化防止の推進などに重点が置かれ、それに資する加算等が充実して全体では0.54%のプラス改定となった一方、報酬の適正化・重点化の観点から引下げとなったものや、新設された加算の中には取得要件等が難しいものもあり、介護サービスの種別によって改定の影響は様々であった。通所介護で言えば、サービス提供区分が細分化され、基本報酬の時間区分が従来2時間区分から1時間区分に細分化されたため、現行報酬が長時間区分にスライド（旧7-9時間⇒新8-9時間）し、結果的に報酬ダウンとなって実態としてはマイナス改定となった。また8月には自己負担額の引き上げが行われ、2割負担の方のうち特に所得の高い方については自己負担額が3割となるなど（当事業所でも4名の方が対象となった）介護業界を取り巻く環境は依然として厳しかったといえる。

当事業所に於いても、中重度ケア体制加算の要件が整わず、4月から算定できなくなったが、前年度と同じく居宅介護事業部門の影響もあって、年間を通じ安定した新規の利用者（31名）があり、5月には利用者数821名という過去最多の月間延べ人数を記録した。年間延べ利用者数として、前年度の7181名を大きく上回る8811名を達成したこともあって、今期は今まで以上に活気あふれ充実した一年となった。

新規利用者の内訳をみると、元気デイに関しては、前年度中よりすでに新規の依頼をお断りする状況となっていたが、要介護者の受け入れに於いても6月の段階でほぼどの曜日も満杯に近い状態となり、7月からは新規受け入れと利用中止者等の数が平衡する状況、動的平衡状態となったまま高い利用者数を維持することとなった。（12月には要介護者の打診の状況と中重度者を介護保険サービスの対象にすべきであるという旨の方向性が行政より示されていることを鑑みて、36名定員の内訳を要介護31名、元気デイ5名に変更した。）

前年度からの課題であった介護職人材の確保においては、今期は4名の新入職者を迎

えた一方それを越える5名の退職者があり、職員採用に向けた活動も継続的に進めてはいるが、慢性的に職員不足の状態が続いている。しかし、既存の職員がサービスの柱となり、工夫を重ね、それぞれがスキルアップし利用者への支援が低下しないように現状での最善を尽くした結果、上述した過去最高のご利用者数に繋がったと思われる。ではあるが、職員確保は急務であり早急に安定した形での支援体制に戻すことができるように努めていきたい。

最後に地域福祉への貢献という観点から見ると、認知症カフェでの活動や出張体操などを通じて、地域社会での福祉拠点として十分にその責務と機能を果たしているのではと考える。この程、国は高齢化の進展を踏まえ、認知症の予防と、発症しても地域で暮らせる共生への取り組みを柱に検討を進めてゆく方針を打ち出した。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年には、認知症の高齢者も約700万人に増加すると見込まれている。以前より高齢者の方自身がいままでの人生の中で培ってきた経験をもとに、何らかの社会的な役割を持って生活できる地域の実現が必要であると論じてきたが、それは認知症となっても例外ではなく、高齢者の自主的な介護予防活動を支援しつつ、認知症の有無に関わらず高齢者の方々が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるようなシステムを構築していく必要性を改めて強く感じている。それを踏まえ、デイサービスにおいては、今後も高齢者の方の心身機能改善・機能維持だけに留まらず「生活の回復」、さらには生きがいを持つ「人生の回復」に向けて支援していきたい。

重点目標別報告

① 介護保険報酬改定に伴う変更事項に対する利用者への適切で丁寧な対応

介護保険報酬改定によりサービス内容（サービス時間帯と料金）が変更されたが、利用者全体に向けては事前に施設通信等にてお知らせするとともに、文書と契約書別紙にてサービス内容の変更についての説明を行ったことにより、混乱なくスムーズにサービスを移行することが出来た。（新総合事業に関しても10月に若干のサービス内容の変更が行われたが、上記同様、契約書別紙にて変更点につき十分な説明を行った上、サービス移行を行った。）

② ご利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化

朝礼や終礼、スタッフミーティング等を通じて情報の共有化に努め、個々の利用者のニーズに関係機関との連絡を密に取りながら迅速に対応した。（特にふじの郷の居宅介護支援事業部門とは密接に連携を取ることが出来、ご利用者ならびにご家族の細かなニーズに適宜対応することが出来た。）

③ 組織内の連携の強化及びサービス内容の充実

- ・組織内の連携の強化については、主役はご利用者であるという基本姿勢を柱とするミーティングや研修等を行い、今年度もスタッフ間のコミュニケーション・連携の強化をはかった。
- ・機能訓練においては、新総合事業対象者（事業対象者及び要支援者）、要介護利用者双方への機能訓練内容の充実へ向けて、引き続き機能訓練に関わる職員（機能訓練指導員及び音楽担当職員）、看護師、生活相談員の3職種によるミーティングを行い、利用者の方一人一人の思いに添った、また機能に合わせた機能訓練を計画実践、評価することが出来た。今期も午前中の音楽・運動療法（筋肉ごく楽体操）、午後の脳リハビリ体操（よか脳体操）の全体体操とともに個別の機能訓練の充実を目指して、平行棒やトレーニングマシン（マルチフォームジム）等の器具を使った訓練、また実際の生活環境を模した場面での機能訓練として施設内の設備を使用した訓練等を行ったが、昨年、「5階まで階段を上って息子に会いに行くことが出来た」と成果をあげられた方は98歳というご高齢にも関わらず介護保険の更新において要介護から要支援となられるなど、今期も訓練の成果や喜びの報告が続いた。
- ・レクリエーションに関しては、デイを利用される方全体のかかわりと達成感を得られるものとして、今期も引き続き手指訓練も兼ねたタペストリーの製作を行った。利用者の方が「家でも出来る」と自信を持って帰宅できるような作品作りを行い、施設での成功体験を自宅でも追体験できるようにした。また、作成した季節の小物をその季節ごとにお持ち帰り頂き、大変喜んで頂けた。（おひな様や季節のカード等）利用者からの要望を反映したレクリエーションや行事も随時企画し行い、適宜、職員によるミニコンサート等も行った。（七夕コンサート等）

④ 職員の資質向上

理念を踏まえた質の高い支援を行うためには、これを行う職員が高い倫理と正しい姿勢を身につけ、様々な状況に対応できる実践力を磨くことが必要であり、それを実践するためミーティングや職員研修において対人援助業務に関する内部研修を行う一方、随時、ヒヤリハットや事故報告を基にした介護技術の見直しと検討を行い、事故の再発防止に取り組むとともに各自の介護技術向上を目指した。また、利用者に関する細かな気付きを朝礼、終礼で報告することを奨励し、それに対する検討を随時スタッフ間で行った結果、そこより拾い上げられた子細な利用者やご家族のニーズをサービスに反映させてゆくことができた。

⑤ 地域社会へのアプローチの強化と経営の安定化

各種地元のイベント（満月会・そろばん踊りなど）に参加し、地域の方との交流を積極的に行った。また、広域にわたって行っている老人会等への従来の出張体操に加え、定期的（月1回）に認知症カフェ（認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参

加でき、集う場)で介護予防に関する講義・相談を行った。法人の他の事業部門と連携を取りながら、上記のような地域社会へのアプローチを継続・強化した結果、部門として目標としていた登録者数(要介護利用者)60名(総合事業の登録者を合わせると年度末で74名)を達成することが出来、より経営基盤の安定化を図ることが出来た年であった。

⑥ 環境整備

今期も大きな器具等の購入は行わなかったが、ご利用者様のご希望に添った細かな器具等の購入を行いサービスの充実に努めた。また、ご逝去された訪問入浴のご利用者様のご遺族より介護用ベッド、歩行器のご寄付のお申し出があり、ご寄贈頂いて多くの利用者の方が活用されている。一方、施設設備の老朽化も進んでおり、今期もトイレや空調等修理・修繕を実施した。

⑦ その他

* 実習生の受け入れ(社会福祉士)

| | | |
|---------------|----|--------------|
| 共生館国際福祉医療カレッジ | 1名 | (6月1日～7月31日) |
| 久留米大学 | 1名 | (9月4日～10月5日) |

デイサービス部門主任 : 濱田美穂子

平成30年度 デイサービス稼働状況（要介護）

| | 1日平均 | 延べ人数 | 見込み数 | 稼働日 | 見込み数に対する利用率 | 定数に対する利用率 (11月までは30名 12月より31名) | 体験者数 | 新規利用者数 |
|-----|-------|------|------|-----|-------------|--------------------------------------|------|--------|
| 4月 | 24.52 | 613 | 673 | 25 | 91.1% | 81.7% | 4 | 7 |
| 5月 | 26.11 | 705 | 749 | 27 | 94.1% | 87.0% | 2 | 2 |
| 6月 | 26.19 | 681 | 735 | 26 | 92.7% | 87.3% | 1 | 1 |
| 7月 | 23.73 | 617 | 713 | 26 | 86.5% | 79.1% | 4 | 3 |
| 8月 | 23.48 | 634 | 674 | 27 | 94.1% | 78.3% | 1 | 2 |
| 9月 | 24.60 | 615 | 678 | 25 | 90.7% | 82.0% | 3 | 3 |
| 10月 | 25.81 | 697 | 759 | 27 | 91.8% | 86.0% | 2 | 4 |
| 11月 | 26.04 | 677 | 747 | 26 | 90.6% | 86.8% | 4 | 1 |
| 12月 | 25.68 | 642 | 745 | 25 | 86.2% | 82.8% | 0 | 1 |
| 1月 | 23.29 | 559 | 705 | 24 | 79.3% | 75.1% | 3 | 1 |
| 2月 | 22.83 | 548 | 653 | 24 | 83.9% | 73.7% | 1 | 1 |
| 3月 | 24.81 | 645 | 743 | 26 | 86.8% | 80.0% | 3 | 5 |
| 計 | 24.78 | 7633 | 8574 | 308 | 89.0% | 81.7% | 28 | 31 |

新規・体験・問い合わせ等（人数）

| | 新規 | 体験 | 問い合わせ | 逝去 |
|-----|----|----|-------|----|
| 4月 | 7 | 4 | 5 | 0 |
| 5月 | 2 | 2 | 3 | 0 |
| 6月 | 1 | 1 | 3 | 0 |
| 7月 | 3 | 4 | 4 | 1 |
| 8月 | 2 | 1 | 2 | 0 |
| 9月 | 3 | 3 | 4 | 1 |
| 10月 | 4 | 2 | 3 | 0 |
| 11月 | 1 | 4 | 6 | 0 |
| 12月 | 1 | 0 | 2 | 0 |
| 1月 | 1 | 3 | 4 | 1 |
| 2月 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 3月 | 5 | 3 | 5 | 0 |
| 合計 | 31 | 28 | 43 | 5 |

利用者の年齢

| 年齢分布（人数） | |
|----------|----|
| 60歳代 | 1 |
| 70歳代 | 14 |
| 80歳代 | 30 |
| 90歳代 | 12 |
| 100歳代 | 1 |

* H31年3月現在

全利用者平均年齢 85.02歳

* 平成30年1月13日に35名定員を36名定員（要介護：30名、元気デイ6名）としたが、状況の変化により平成30年12月4日に36名定員の内訳を要介護31名、元気デイ5名へと変更した。

利用中止者数とその理由内訳

| 逝去 | 入院 | 入所 | その他 | 合計 |
|----|----|----|-----|-----|
| 5名 | 9名 | 6名 | 6名 | 23名 |

デイサービス利用者における男性の割合

| | H28年度 | H29年度 | H30年度 |
|----|--------|--------|--------|
| 全体 | 54 | 60 | 73 |
| 男性 | 7 | 13 | 16 |
| 比率 | 12.96% | 21.67% | 21.92% |

* 各年3月時点登録者数

平成30年度 デイサービス稼働状況(元気デイ)

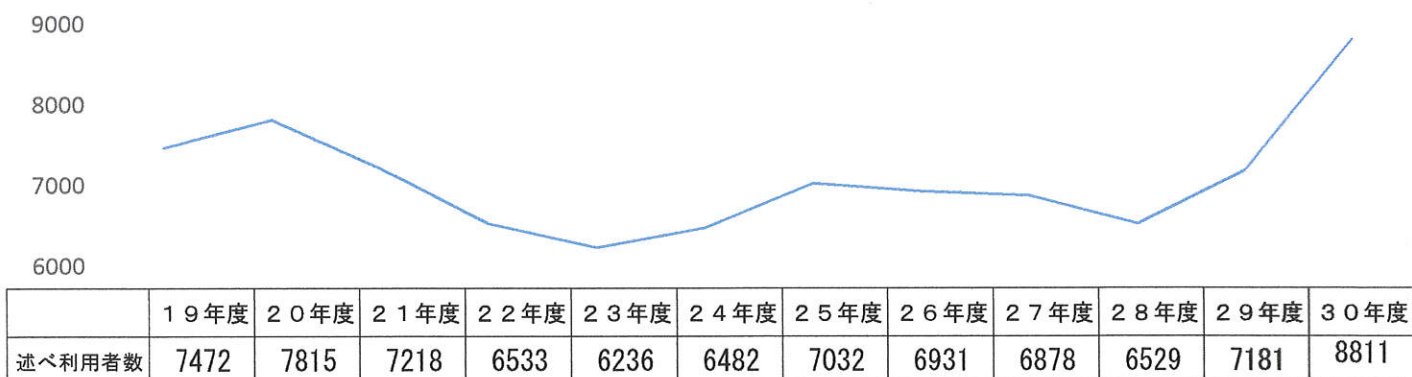
| | 1日平均 | 延べ人数 | 見込み数 | 稼働日 | 見込み数に対する利用率 | 定数に対する利用率 |
|-----|------|------|------|-----|-------------|-----------|
| 4月 | 4.04 | 101 | 123 | 25 | 82.1% | 80.8% |
| 5月 | 4.30 | 116 | 120 | 27 | 96.7% | 85.9% |
| 6月 | 4.19 | 109 | 120 | 26 | 90.8% | 83.8% |
| 7月 | 3.96 | 103 | 118 | 26 | 87.3% | 79.2% |
| 8月 | 3.93 | 106 | 123 | 27 | 86.2% | 78.5% |
| 9月 | 3.64 | 91 | 104 | 25 | 87.5% | 72.8% |
| 10月 | 3.22 | 87 | 119 | 27 | 73.1% | 64.4% |
| 11月 | 3.31 | 86 | 107 | 26 | 80.4% | 66.2% |
| 12月 | 4.04 | 101 | 101 | 25 | 100.0% | 80.8% |
| 1月 | 3.88 | 93 | 96 | 24 | 96.9% | 64.6% |
| 2月 | 3.79 | 91 | 85 | 24 | 107.1% | 63.2% |
| 3月 | 3.58 | 93 | 86 | 26 | 108.1% | 59.6% |
| 計 | 3.82 | 1177 | 1302 | 308 | 90.4% | 76.4% |

| 年齢分布(人数) | |
|----------|----|
| 60歳代 | 0 |
| 70歳代 | 1 |
| 80歳代 | 10 |
| 90歳代 | 3 |
| 100歳代 | 0 |

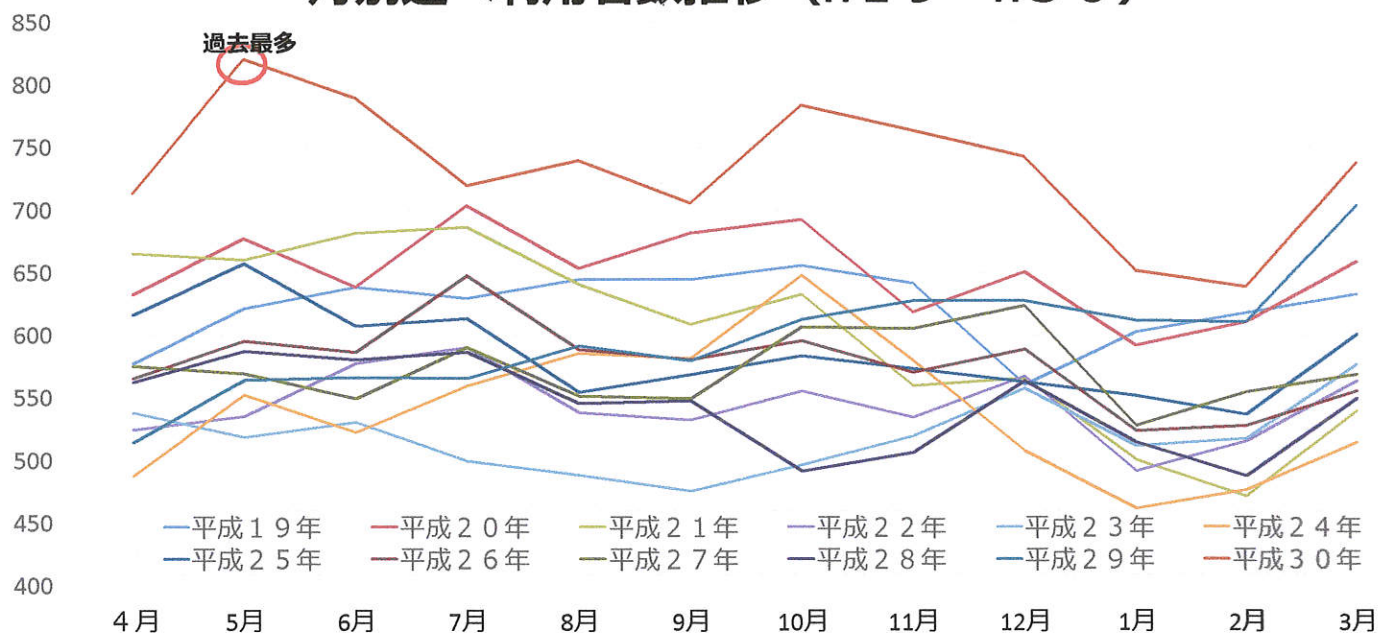
* H31年3月現在

平均86.00歳

デイ延べ利用者数の推移 (H19~H30)



月別述べ利用者数推移 (H19~H30)



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平成19年 | 578 | 622 | 639 | 630 | 645 | 645 | 656 | 642 | 561 | 603 | 618 | 633 |
| 平成20年 | 633 | 678 | 639 | 704 | 654 | 682 | 693 | 619 | 651 | 592 | 611 | 659 |
| 平成21年 | 666 | 661 | 682 | 687 | 641 | 609 | 633 | 560 | 566 | 501 | 472 | 540 |
| 平成22年 | 525 | 536 | 578 | 591 | 539 | 533 | 556 | 535 | 568 | 492 | 516 | 564 |
| 平成23年 | 539 | 519 | 531 | 500 | 489 | 476 | 497 | 520 | 558 | 512 | 518 | 577 |
| 平成24年 | 488 | 553 | 523 | 560 | 586 | 582 | 648 | 580 | 508 | 462 | 477 | 515 |
| 平成25年 | 617 | 658 | 608 | 614 | 555 | 569 | 584 | 574 | 563 | 552 | 537 | 601 |
| 平成26年 | 566 | 596 | 587 | 648 | 589 | 581 | 596 | 571 | 589 | 524 | 528 | 556 |
| 平成27年 | 576 | 570 | 550 | 591 | 552 | 550 | 607 | 606 | 624 | 528 | 555 | 569 |
| 平成28年 | 563 | 588 | 581 | 587 | 546 | 548 | 492 | 507 | 564 | 515 | 488 | 550 |
| 平成29年 | 515 | 565 | 567 | 566 | 592 | 580 | 613 | 628 | 628 | 612 | 611 | 704 |
| 平成30年 | 714 | 821 | 790 | 720 | 740 | 706 | 784 | 764 | 743 | 652 | 639 | 738 |

30年度介護度別登録者数（入院等の休止者を除く）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年度合計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|------|
| 要介護1 | 25 | 26 | 26 | 24 | 23 | 23 | 25 | 28 | 26 | 24 | 24 | 23 | 297 |
| 要介護2 | 17 | 16 | 19 | 21 | 19 | 18 | 20 | 19 | 20 | 20 | 17 | 21 | 227 |
| 要介護3 | 5 | 6 | 5 | 4 | 4 | 8 | 7 | 5 | 6 | 6 | 7 | 5 | 68 |
| 要介護4 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 41 |
| 要介護5 | 5 | 5 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 48 |
| 要支援1 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 46 |
| 要支援2 | 7 | 7 | 6 | 7 | 6 | 6 | 7 | 7 | 8 | 7 | 7 | 8 | 83 |
| 事業対象者 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 5 | 3 | 5 | 3 | 3 | 3 | 3 | 55 |
| 合計 | 71 | 72 | 71 | 72 | 69 | 71 | 74 | 76 | 75 | 72 | 69 | 73 | 865 |

30年度介護度別延べ利用者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年度合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 要介護1 | 230 | 302 | 284 | 247 | 235 | 206 | 265 | 268 | 238 | 207 | 200 | 222 | 2904 |
| 要介護2 | 217 | 231 | 252 | 226 | 239 | 221 | 236 | 250 | 249 | 216 | 196 | 256 | 2789 |
| 要介護3 | 69 | 74 | 70 | 67 | 61 | 90 | 72 | 54 | 65 | 45 | 68 | 56 | 791 |
| 要介護4 | 18 | 21 | 22 | 23 | 25 | 30 | 49 | 46 | 41 | 36 | 38 | 56 | 405 |
| 要介護5 | 79 | 77 | 53 | 54 | 74 | 68 | 75 | 60 | 49 | 55 | 46 | 55 | 745 |
| 要支援1 | 27 | 28 | 29 | 28 | 26 | 19 | 25 | 22 | 27 | 24 | 20 | 21 | 296 |
| 要支援2 | 46 | 47 | 40 | 38 | 45 | 41 | 41 | 39 | 54 | 48 | 47 | 48 | 534 |
| 事業対象者 | 28 | 41 | 40 | 37 | 35 | 31 | 21 | 25 | 20 | 21 | 24 | 24 | 347 |
| 合計 | 714 | 821 | 790 | 720 | 740 | 706 | 784 | 764 | 743 | 652 | 639 | 738 | 8811 |

延べ利用者数推移

| | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
| 7472 | 7815 | 7218 | 6533 | 6236 | 6482 | 7032 | 6931 | 6878 | 6529 | 7181 | 8811 |

平成30年度 行事関係一覧

| | 日 付 | 行事内容 | 場 所 | 備 考 |
|------------|--------------|---------------|---------|-----------------|
| 平成三十年 | 4月7日 | たんぽぽ春爛漫コンサート | 2Fホール | |
| | 4月23日 | 鶴の会 | 2Fホール | |
| | 5月10日 | 防災訓練 | ふじの郷全館 | |
| | 5月14日 | さくら会 | 2Fホール | |
| | 5月30日 | 虹の会 | 2Fホール | |
| | 6月27日 | 鶴の会 | 2Fホール | |
| | 7月7日 | 藤春会 | 2Fホール | |
| | 7月17日 | さくら会 | 2Fホール | |
| | 7月21日 | ハンドフルートコンサート | 2Fホール | |
| | 7月30日、31日 | セタプチコンサート | 1Fデイフロア | 大木下・平田・実習生 |
| | 8月7日～11日 | そうめん祭り | 1Fデイフロア | |
| | 9月17日 | 敬老会 | 1Fデイフロア | 紙芝居「けちくらべ」歌紅葉 |
| | 9月20日 | さくら会 | 2Fホール | |
| | 10月3日 | 防災訓練 | ふじの郷全館 | |
| | 10月16日～22日 | 第11回ふじの郷大運動会 | 1Fデイフロア | はちまき、玉、カゴ、ボール等 |
| | 10月29日 | 運動とお話のボランティア | 1Fデイフロア | カメラ |
| | 10月31日 | 相撲観覧会 | 水天宮境内 | |
| | 11月8日～14日 | おやつ作り(ホットケーキ) | 1Fデイフロア | ホットケーキミックス等材料一式 |
| | 11月15日 | オカリーナコンサート | 1Fデイフロア | カメラ、マイク |
| | 11月23日 | ミニミニコンサート | 1Fデイフロア | 大木下・高校生クラリネット |
| | 12月6日 | 鶴の会 | 2Fホール | |
| | 12月7日 | 理事長ミニコンサート | 1Fデイフロア | 理事長 |
| | 12月24日 | クリスマスコンサート | 2Fホール | |
| 12月19日～25日 | クリスマス歌のプレゼント | 1Fデイフロア | | |
| 12月21日～22日 | ゆず風呂 | 1F 浴室 | ゆず | |
| 12月28日 | 餅つき大会 | 1Fデイフロア | 餅つき道具一式 | |
| 12月29日 | スペシャルコンサート | 1Fデイフロア | 齋藤由香利さん | |
| 平成三十一年 | 1月4日～1月12日 | 初詣 | 白角折神社 | おみくじ・お賽銭 |
| | 2月2日 | 豆まき | 1Fデイフロア | 豆・お面 |
| | 2月13日 | パレンタインデー | 1Fデイフロア | チョコレートケーキ |
| | 2月26日、3月1日 | 梅見外出 | 梅林時 | |
| | 3月4日 | さくら会 | 2Fホール | |
| | 3月16日 | 民踊舞踊ご披露会 | 2Fホール | |

平成30年度 居住部門 事業報告

【総括】

本年度も、入・退居が複数件あった。例年のことながら、退居に至る経緯の中でご本人の希望や心情を汲むこと、心身状態の安全を図ることの大切さ、またそれらに対する援助員として状況の正確な見極めの必要性を再認識することが多くあった。「何がご本人にとって益となるのか」と考えながら進めてはいたが後悔することもあり、引き続き研鑽を積んで援助業務に当たることを次年度への引継ぎとしたい。

今年度も市役所との意見交換を行う機会を得たが、当市が中長期的には支援ハウス事業からの撤退を検討していることが判明した。それを受け、当法人としても今後の対応を考えていく必要があり、居住部門のみならず法人全体の課題として取り組んでいくことになるだろう。

入居状況

年度当初 19 名、入居 2 名退居 1 名にて年度末 20 名。

行事

居住自治会・お誕生日会 1 / 月

映画会 1 / 月

篠崎先生との「うたおうかい」 1 / 月

お買い物外出 2 / 月

デイサービス機能向上体操参加 6 / 週

青果訪問販売 1 / 週

お花見食事会 (4 月) 花火観覧食事会 (8 月) 忘年会 (1 2 月)

外出ピクニック (10 月)・朝倉キリンビール園・道の駅くるめ

防災訓練 (デイサービスと合同) 2 / 年

もちつき大会 (デイサービスと合同) (1 2 月)

元旦お顔合わせ会 (1 月)

「介護予防の勉強会」講師：武田寿彦氏 (4 月・11 月・2 月)

居住地域交流① (校区行事・町内行事参加、協力)

京町校区ふれあいの会高齢者外出

・そろばん踊り参加 (* 2 名)

京町校区ふれあいの会

・満月会参加 (* 2 名)

(7 月・11 月・3 月)

・お汐井お供え作り (2 回/年)

・フラワーガーデン水やり作業

* デイサービススタッフの協力を得た。

【地域交流事業】

事業①・地域交流スペース・デイフロアオープン行事

社会福祉法人 ひびきの杜主催

- ・14周年記念
『高山大知ハンドフルートコンサート』 : 7月21日・土
- ・ふじのさとクリスマス
『久留米音協合唱団コンサート』 : 12月24日・月

高齢者生活支援ハウス ふじの郷主催

- ・歌の会たんぼぼ「春爛漫コンサート」 : 4月7日・土
- ・お話ボランティア「虹の会」 : 5月30日・水
- ・藤春会日本舞踊ご披露会 : 7月7日・土
- ・オカリーナコンサート : 11月15日・木
- ・民踊舞踊ご披露会 : 3月16日・土
- ・演芸ボランティア『さくら会』 : 5月14日・月
- ・ " : 7月17日・火
- ・ " : 9月20日・木
- ・ " : 3月4日・月
- ・演芸ボランティア『鶴の会』 : 4月23日・月
- ・ " : 6月27日・水
- ・ " : 12月6日・木
- ・ふじのさとバザー : 2月24日・日

事業②・施設見学・体操体験（来設）

事業③・会場利用

- ・医療心理学研究所（毎月定期利用）
- ・ロングライフコール（毎月定期利用）
- ・久留米音協合唱団（毎月定期利用）
- ・シャンソン・グリシーヌの会（毎月定期利用）
- ・ラ・シャンソンくるめ（毎月定期利用）
- ・歌の会たんぼぼ（毎月定期利用）
- ・岡田香真流大正琴教室
- ・ビッグベアバンド
- ・明善高等学校音楽部
- ・コーロ・アウラ

- ・ヘーセイオワール
- ・姉さん女房の会
- ・XUXU
- ・猿田彦合唱団
- ・Pons Show You
- ・合唱団サウス・エコー
- ・九州大学コールアカデミー
- ・久留米第九の会
- ・この他に個人でのご利用が6名、のべ11回

事業④・社会福祉士教育実習受入

- ・久留米大学 佐伯繭さん 9月4日～10月5日 の実習期間中、
居住自治会・お誕生日会
お汐井お供え作り
満月会は当日体調不良にて欠席

/ 以上居住部門にて実習

居住部門主任 長谷川 美樹

平成30年度 訪問入浴サービス部門 事業報告

重点目標

- ①利用者の一人ひとりの身体状況を把握し、異常の早期発見や健康管理・生活上の助言等を、本人もしくは家族に提供できるようにする。
- ②利用者の個別性を大切にして、希望や要望などに応え、充実したケアサービスを提供する。
- ③利用者の清潔保持、生活意欲の増進を図るとともに、その家族の身体的、精神的な負担の軽減を図る。
- ④職員の身体面、精神面を考慮した上で、スタッフの育成を図り人材の充実に取り組むとともに、2台目を1.5日/週の安定した稼働を目指す。
- ⑤訪問入浴車2台を以下のように用い、月間延べ訪問件数130件を目安とし、1日平均、5人/程度の利用となるよう努める。

入浴車1台目：月～金 週5日稼働

入浴車2台目：週1.5日稼働（稼働する曜日は状況に応じて変動あり）

- ⑥居宅介護支援事業所の開設に伴い、連携することでより多くの情報の収集及び知識を深めサービスの質の向上を目指すとともに、外部との関係の強化を図り訪問入浴サービスの認知度を高める。
- ⑦ターミナルケア・介護予防・重度身体障害者もできる限り受け入れることにより、幅広い訪問入浴サービスの提供をめざす。
- ⑧社会福祉士の実習生を受け入れ、高齢者福祉領域の後継人材の育成に努める。

重点目標別報告

- ①・定期的な訪問によりご利用者の表情、会話等で心身の変化をみることができ、入浴していただくことで、全身の身体状態を細かく観察でき、状態の変化、皮膚状態の変化をご本人、ご家族に報告できた。
 - ・ご家族に入浴前、入浴後で皮膚の状態をみていただくことで、気になる点などをよりわかりやすく伝えることができ、状況によっては関係者に状態の変化の報告を行い早期発見、対応に繋ぐことができた。
 - ・月に1回はモニタリングを担当のケアマネジャーに配布し、情報の周知を行った。
- ②・お風呂の時間帯、入浴をする場所（お部屋）、お風呂の湯加減、準備等の物音、スタッフの声の音調など配慮すべきことは様々であり、お風呂のサービスに満足していただくことはもちろんだが、家のなかに入り込まれるストレスに配慮し、ご利用者、ご家族も満足できるサービスの提供に努めた。
 - ・ご利用者、ご家族の要望にできる限り応え信頼関係を築いていくことで、希望や要望をより細やかに話していただける環境作りに努めた。
 - ・女性職員の対応を望まれるご利用者には、でき得るかぎり女性職員2人、男性職員1名でのチーム体制を作りサービスの提供を行った。
- ③・入浴していただくことで、“さっぱりした”“気持ち良かった”と喜んでいただけた。
 - ・“週に1回の楽しみ”や“夢のごたる”という声を聞くこともあり、お風呂に入ることを楽しみにされてある様子を伺うことができた。
 - ・定期的に入浴することで身体の清潔を保持し、ご利用者が気持ちよく入浴されている状況を見て、ご家族にも安心して頂けた。
 - ・訪問している間、ご利用者またご家族と会話をすることで“元気がでた”“話せて良かった”と言われることもありお風呂以外でも精神的な負担の軽減を図れた。

- ④・今年度はスタッフの新規育成を行えず、男性介護士の退職で、2台目の1.5日/週の稼働は6月より中止し1台のみの稼働となった。更に看護師の退職で土曜日半日稼働もH31年3月より中止することとなった。

4月：看護師（新スタッフとして）デイサービスとの兼務で訪問入浴勤務開始。

6月：男性介護士退職。入浴車1台のみ稼働。主任交代。

3月：看護師退職（デイサービスとの兼務）土曜日稼働中止。

- ⑤ 別紙参照

- ⑥・ふじの郷ケアプランサービスが開設し、訪問入浴サービスの良さ、ふじの郷の良さを伝えやすくなる環境が整った年だったが、訪問入浴部門として積極的な営業ができず、連携し認知度を向上させるまでの動きはできなかった。

- ⑦・介護予防の依頼はなし。・身体障害者の依頼はなし。

・ターミナル期の依頼（打診含む）は48件。受け入れは3割程度だった。

- ⑧・訪問入浴がどんなサービスなのか、また在宅での介護の現状をみていただいた。

総括

今年度は、新スタッフ（看護師）が4月より加わり入浴車2台稼働の安定を図っていたが、男性介護士より退職の申し出があり6月の男性介護士退職までに稼働状況を入浴車1台へ調整することとなった。2台稼働が火曜日のみだったこととサービス終了の利用者さんが続いたことでスケジュールにあきができ、1台での稼働調整ができた。但し、土曜日は午後にも稼働をせざるを得ないことがあった。

さらに、平成31年3月からは新スタッフとして働いていた看護師の退職で更なるマンパワー不足が生じ、土曜の稼働を中止した。1台での稼働は時間制限のある非常勤スタッフ（看護師1名介護士1名）でも対応できるよう1日平均5件の利用に収まるようにしていたが、同一施設内での複数利用が増え、移動がないため1日6件でも無理なく就業時間内にサービス提供が行えた。

利用して頂いている施設での当サービスへの評価は高く、「安全に安心してお風呂に入れてあげたい。あなた達にお風呂を任せたい」と施設での入浴を訪問入浴に切り換えたいとの打診も多かった。ただすぐには受け入れができず、施設スタッフでの入浴で対応し待機して頂くこともあった。

新規の利用は高齢者の終末期や中高年の癌等によるターミナル期での利用が8割で、今年度の新規のうち一回のみの利用で亡くなられた方は6割近くあり、この割合も毎年大差はない。ターミナル期の依頼は迅速な対応が要求されるため事業所へはできる限りの空き情報を伝えたが、予定が合わないなどで打診に対し3割程度の受け入れにとどまった。訪問入浴サービス利用の需要は変わらないが、開設から14年目を迎えても受け入れ状況は改善できていない。その一番の原因はマンパワー不足であり、今年度の新人育成も人材確保ができず実現しなかった。しかし訪問入浴専従スタッフは最短でも10年のキャリアを持ち、デイサービスとの兼務のため出勤日数が少ないスタッフのフォローも入念に遂行することで、毎回安定したサービスを提供し、利用者やその家族からも評価を得て、信頼関係を築く要因となっていると考える。1台稼働とはなったが、スタッフが少人数で無駄のない動きをすることによりサービスの現場や事務作業の効率が上がり、人件費削減にも繋がって利益率は向上した。また、月平均介護保険収入も前年度と変わらない結果となったことも評価したい。ただし、スタッフ不足については深刻さを増すばかりで、新しい人材を強く望む年となった。

平成30年度 訪問入浴サービス稼働集計

| 月 | 1台目 | 訪問件数(件) | 稼働日数(日) | 平均人数(人) | 訪問件数合計(件) | 新規打診数 | 介護保険収入(10割分) |
|---------|-----|---------|---------|---------|-----------|-------|--------------|
| | 2台目 | | | | | 新規依頼数 | |
| H30年 4月 | | 100 | 23.5 | 4.25 | 103 | 2 | 1,379,530 |
| | | 3 | 2 | 1.5 | | 1 | |
| 5月 | | 115 | 27 | 4.25 | 118 | 5 | 1,584,770 |
| | | 3 | 3 | 1 | | 3 | |
| 6月 | | 113 | 23.5 | 4.8 | 113 | 7 | 1,469,110 |
| | | | | | | 3 | |
| 7月 | | 108 | 24 | 4.5 | 108 | 7 | 1,455,510 |
| | | | | | | 2 | |
| 8月 | | 101 | 24 | 4.2 | 101 | 9 | 1,342,710 |
| | | | | | | 3 | |
| 9月 | | 96 | 22.5 | 4.68 | 96 | 4 | 1,293,380 |
| | | | | | | 2 | |
| 10月 | | 117 | 23.5 | 4.97 | 117 | 8 | 1,558,806 |
| | | | | | | 3 | |
| 11月 | | 124 | 24 | 5.16 | 124 | 5 | 1,649,400 |
| | | | | | | 0 | |
| 12月 | | 108 | 22.5 | 4.8 | 108 | 3 | 1,457,720 |
| | | | | | | 1 | |
| H31年 1月 | | 105 | 22 | 4.77 | 105 | 5 | 1,408,310 |
| | | | | | | 1 | |
| 2月 | | 101 | 22 | 4.8 | 101 | 4 | 1,374,190 |
| | | | | | | 2 | |
| 3月 | | 105 | 21 | 4.94 | 105 | 2 | 1,344,244 |
| | | | | | | 0 | |
| 平均 | | 107.75 | 23.29 | 4.67 | 108.25 | 5.08 | 1,443,140 |
| | | 3 | 2.5 | 1.25 | | 1.75 | |

* 2台目の稼働状況 火曜日のみ

* H30.6月より入浴車1台稼働

* H31.3月より土曜日稼働中止

平成30年度 居宅介護支援部門 事業報告

1.事業運営総括

年度初めに前管理者より業務を引き継ぎ、少しずつでも信用を得られるよう丁寧に事業を行ってきた。多くの他事業所の方々や久留米市介護保険課に指導を頂きながら、また法人内においても他部門の協力を得ながら業務を遂行する事ができ、年度末には契約者数が35名を数え、2年目とすれば及第点であったと思う。(別紙①参照)

とはいえ居宅介護支援業務の在り方や事務業務についてはこの1年で見つかった課題も多く、経験を積む事や自ら学んでいく事など課題の内容に合わせ知識やスキルの向上を図ることを引継ぎとし、次年度も行っていきたい。

また、厚生労働省より2021年度から居宅介護支援事業所管理者要件を主任介護支援専門員とするという方針が示され、当部門として人員補充と介護支援専門員の養成が課題となった。これまでの経験をもとに改めて居宅介護支援部門として研鑽を積んでいきたいと思う。

2.職員

管理者1名(介護支援専門員兼務)

3.重点目標別報告

- 1 安定した業務が行えるよう、人員の補充、配置を行っていく。ふじの郷全体の人員も考えつつ、他部門との協力及び支援体制を取りながら配置をしていく。
 - 年度初めに新入職員を得て、更新研修終了後から新人研修開始予定としたが退職となり、これまで人員補充ができていない。安定した業務の為に人員補充は重要であるので配置を急ぐ必要がある。
- 2 開設から1年を経て、少しずつ認知度も上がりつつあるが、より関係する事業所や地域との連携を深めていき、信頼される事業所となるよう丁寧に業務を行っていく。
 - 協力医療機関である齋藤醫院の医師からの紹介や、齋藤醫院受診中の方のご家族から直接依頼を受けることが多かった。今後は包括支援センターや他事業所・医療機関とも信頼関係が構築できるよう丁寧に業務を行っていく。
- 3 介護支援専門員として、利用者の真のニーズを捉え、迅速で真摯な対応が出来るよう知識の習得に努め、資質の向上を図っていく。
 - 可能な限り住み慣れた環境で生活できるよう利用者の自立を支援し、状態悪化防止を図れるべく関係事業所と連携を図り計画的に支援を行ってきた。またできる限り研修等にも参加したが、今後はより一層の自己研鑽に努めるよう、引き続きの課題としたい。
- 4 次年度には経営基盤の整った部門として位置づけられるよう、本年度1年をかけて、人員配置、経営、事業それぞれの安定を図っていく。
 - 1部門として利用者増など堅実な成長ができたと思えるが、内実は居宅業務に追われ課題も多く残った。次年度は経営、事業の安定を図る為に人員の補充をしつつ利用者及び家族の生活の課題解決の為に丁寧、迅速、適切な対応を心がけ、信頼のおける事業所となるよう努めていく。

